

できました。住民の皆さんの意識に浸透することは、本当に時間が掛かることだと思えます。それでもこの10年、時間をかけた意識付けというのは崩れないと思います。また、3・11の東日本大震災を経て、身近な問題として、地域の絆や人と人とのつながり、意識づくりの重要性を改めて認識しました。

**中村** お話のとおり、震災以降、私たちは改めて「人と人の関係性が実感できる社会、心の豊かさを感じられる社会」ということを、否応なく考えさせられた一年であったと思います。

**小林** 地域協働のまちづくりは、当初、人と人とのつながりから生まれる地域の防災力、そして防犯力、教育力の再生や創造といったことを意図していました。今では、地域の創意工夫によって、環境、福祉、健康づくり、文化等へ分野が広がってきています。これは本当に地域の皆さんの成果だと思えます。課題としては、まちづくりの主体となる様々な組織の役割分担が、今混乱しているのではないかと感じています。最初は、行政主導で、まちづくりを担う主体の掘り起こしをしてきましたが、多くの皆様の活動が盛んになるとともに、それを調整する組織や人材が必要であると感じています。10年を経て「いかに行政として市民の活動を下支えし、調整していくか」という時期に来ていると思います。

**中村** 相川会長は、現場ではどのように考えていらっしゃいますか。

**相川** 地域の課題としては、先程、市長からも話があったように、自主防災会と推進会の防災の役割分担が理解されないことがあります。もうひとつ課題として、若い人達がどうやったら参加してくれるか。一部の住民だけでなく、若い人の意見を聞きながら、ど

**清水** 推進会が関わる子ども教室では、子ども達が栽培した野菜を楽しみながら売っていたり、それ以外にも地域でそういったことを考え始めていますね。これは、地域の新たな活力になると思います。

**中村** いわゆるコミュニティ・ビジネスとかソーシャル・ビジネスの分野ですね。社会的起業というのですが、地域の課題や社会的な課題を、「食」や「農」といった事業を展開しながら、一部をビジネスの手法で解決していく。新しい分野ではありますが、これは都留市のような色々な歴史や資源のあるまちなら可能ではないかと思えます。

**小林** それから、「ないものねだりからあるもの探しのまちづくりへ」をいつも言っています。都留市にとっては都留文科大学がその最たるものですが、各地域にはそれぞれの地域資源があります。「学び、発見、実践」、皆で学び合いながら、地域資源を掘り起こし、磨き上げていくことが、郷土を愛する心や誇りに思う気持ちを育てることにもつながると思えます。

**相川** 三吉では「戸沢の森・和みの里」は、近郊からきている人もたくさんいるわけですから、やっぱりあの森を活用するまちづくりをこれからのように展開していったらいいかなというの話し合ったりしています。現在活動しているものはそれを育てながら、新たなメインになるようなものを探しているところです。

これから、行政や私たちの役割、そして地域の中での棲み分けがどのようにできるか、お互いに協力して、できることはやっていきながら、少しでも自分達のまちが住みよいまちになってきたらいいなという気持ちでいます。



うやうや地域活性化を図っていきけるかというの大きなテーマです。

**小林** 10年の間で当初から関わっていた方々が地域のために本当に様々なことを実践していただいた。でも、その方々も年齢を重ねて、その次を担う若い世代をどういうふうに育てていくか、また、より多くの市民を巻き込んでいけるかということが大きな課題となっています。解決方法としては地道に積み重ねていくしかないのだろうけど。

**清水** 東桂の文化祭では、今や2千人もの市民が参加しています。一概に人数ではないけども、顔の見える関係を少しずつ積み重ねてきた成果と考えています。やはり、人と人とのつながりを重視していくことが大切です。

**中村** まず役割分担、調整、コーディネートということですね。これは、中間支援の役割は大きいと思います。組織の領域を超え、横の連携を図れる人材をいかに育成していくか。これは、個々の地域だけでは難しいと思います。支援センターのような組織や清水センター長のような人材に今後も大きな役割があると思います。また、これからは、私はある種の起業家精神を持って、地域で動ける人材を育てることが大事だと思います。都留市には都留文科大学があり、色々な資源を集積していますので、そういうプログラム開発を大学と連携し取り組まれるといいかなと思います。

**小林** 心配していることの一つに、財源に縛られることによって、その範囲で収まり、次にステップアップしていかないという懸念があります。イギリスのチャリティショップ等のように、「財源まで自分で確保していこう」というところまで進化していくことも期待しています。

**中村** ありがとうございます。非常に発展性のあるお話を伺うことができました。課題も多くあるようですが、課題が見えてくるというのは、これまで10年の実績を積んできたからであって、それは、「これから」という他の地域にも参考になると思えます。

地域資源の活用というお話もありましたが、これも非常に大切な要素だと思います。特にこれを商店街と結び付けていくとおもしろいのではないかと思います。また、私達の分野でよくいうソーシャル・キャピタル、人間関係資本とか社会関係資本と呼ぶのですが、人と人とのつながりから生まれる関係性、信頼とか相互扶助があったかも「資本」のような役割を果たすということですね。おそらく、かつての社会には地域に色濃くあったものですが、ただ、しがらみも強かった。今の時代に合わせた中で、しがらみの程度を極力抑えながら、「顔の見える関係性」を構築していくこと。市長のお話を伺う中でも、協働のまちづくりの目標のひとつにそういうものを形成することがあったと思えます。しかし、その部分は試行錯誤的に取り組んでいくしかないところもあります。私は三鷹市においてもまちづくりに関わってきましたが、そこでもやはり様々な課題はありつつも、無作為抽出によって声なき多数の声を反映させていく「まちづくりディスカッション」というおもしろい取組もあります。そうした各地の事例なども取り入れながら、また、都留市は都留文科大学という、大きな資源を抱えているわけですので、うまく活用していけば、住みよいまちづくりがさらに進展すると感じました。本日は本当にありがとうございます。

一同 ありがとうございます。

## 協働のまちづくりのこれまで

### 「都留市まちづくり市民活動支援センター」開設

市民活動の推進拠点の設置



### 「ハートフルネット」都留「試験運用」開始

市民活動団体間の交流サイト



### 平成16年度

### 「ふるさと普請事業制度」創設

### 「禾生・谷村地域協働のまちづくり推進会」設立

住民自ら行うハード事業に必要な原材料費を補助

### 平成17年度

### 「宝・盛里・開地・三吉地域協働のまちづくり推進会」設立

### 平成21年度

### 「都留市自治基本条例」施行

まちづくりの最高規範の制定、協働のまちづくりの理念を定めた条例

